

ポスト公民権運動期のジョージア州アトランタにおける MARTA 設立を通じた白人リベラルの形成に関する研究

The Building of Public Transportation Systems and the White In-town Neighborhoods in Post-Civil Rights Atlanta

研究代表者 宮田伊知郎（教養学部・助教）

MIYATA, Ichiro

Assistant Professor, Faculty of Liberal Arts

I. 研究の目的と意義

本プロジェクトは、ポスト公民権運動期の南部都市における人種及び階級間関係の変化をあきらかにする研究の一部である。アトランタ大都市圏快速交通局(Metropolitan Atlanta Rapid Transit Authority)の形成とそのもとで行われた電車・バス路線の開発に注目し、アトランタ大都市圏に住む白人が、この設立・開発にたいして、どのような声を上げ、どのように反対あるいは推進運動を展開したのか、とくに推進派の動向を中心に分析し、それを通して 60 年代・70 年代のアトランタにおける人種・階級関係の変化をさぐる事がこのプロジェクトの課題である。

公民権運動の進展とともに「保守化」する白人労働者階級あるいは中産階級にかんする研究が、昨今さかんになされてきた。これらの研究は、カラーブラインドなスローガンに彩られた政策をもちいながら、郊外自治体と都市の断絶を進めることを通して、人種によるセグリゲーションが維持さらには強化されていく様子を描き出してきた。本研究の意義は、こうした「保守化」を経験しなかった人々（「リベラル化」といってもよい）に照準を合わせたことにある。白人が多く住む郊外と、黒人の住民が圧倒的多数を占めるアトランタ市中心部をつなぐ公共交通網の形成に対して、郊外郡に住むおおくの白人住民は反対した。本研究で注目するのは、そうした流れに逆らった白人富裕層の近隣であり、この作業を通して、人種・階級関係のより複雑な状態を描くことが

可能になる。

II. 研究の経過

上記の目的を達成するために、関連二次文献の渉猟とともに、一次史料の収集を行った。2007 年 9 月に、ジョージア州アセンズ市のジョージア大学 (University of Georgia, Athens) とアトランタ市ダウンタウンにあるジョージア州立大学 (Georgia State University, Atlanta) において史料収集および調査を行った。アトランタ郊外で発行された地域新聞を手に入れるルートを得たことが、アセンズでの最大の成果であった。ジョージア大学中央図書館で活動している「ジョージア・ニューズペーパー・プロジェクト」の責任者 (Ms. Jannie Ledford) と会い、ジョージア州内でこれまで発行された新聞を、州政府の支援のもとすべてマイクロ・フィルム化しようとするその「プロジェクト」の発展経緯および利用方法等について学んだ。多くの地域新聞の所在・保存状況について知るばかりでなく、その利用が可能になった。アトランタには *Atlanta Journal* と *Atlanta Constitution* (現在は合併し *Atlanta Journal-Constitution*) というアトランタ大都市圏全体で読まれる二大新聞があった(る)が、それ以外にも近隣ごとに、多くの地域新聞(日刊、週刊)が出されており、それらは、コミュニティの動向をよりくわしく知るための貴重な史料となっている。このうち、アトランタ市内および都心部に比較的近い郊外の白人コミュニティにおい

て 1960 年代、1970 年代に発行された、*Northside Neighbor*, *Sandy Springs Neighbor*, *DeKalb New Era* などを入手した。

また、アトランタでは、ジョージア州立大学のアメリカ南部労働史史料館 (Southern Labor Archives) に赴き、アトランタで発足した全米家事労働者組合のコレクション (the National Domestic Workers Union Records, 1965-1979) を調査した。白人富裕層のもとで働く黒人女性の家事労働者たちの動向を知ること、逆に白人リベラル層の形成を分析する上で、重要なカギとなる。彼女たちは、公共交通機関の整備や、安価な運賃を求めたが、その雇い主の富裕層もそれを支持したと考えられるからである。今回の調査では、家事労働者たちの雇用者である白人富裕層の関係を示した組合の非公開文書や、MARTA 設立のかかわりについて彼女自身が残した記述等を探し、必要箇所を入手した。

III. 研究の成果と課題

A. 研究の成果

現地調査後は、これらの史料の分析に努めた。これまでの白人 MARTA 推進派の研究に使った史料は、アーカイブス史料および *Atlanta Journal* や *Constitution* が中心であった。地域新聞の入手は、そればかりでなく、アトランタ市中心部に近いデキャーブ郡の白人富裕層がどのように、公共交通網の設立・建設にかかわっていったのか、より詳細に調べることを可能にした。エモリー大学アーカイブスで予備調査をすでに終えていた Druid Hills に対象をしばり、その動向に注目し、*DeKalb New Era* を分析した。おおまかながら、次の 4 点があきらかになってきた。

1) コップ、グィネット、クレイトン郡の住民と違い、Druid Hills 住民が MARTA を支持したのは、彼らの近隣を貫くストーンマウンテン有料高速道路の建設 (1968 年に最初の住民公聴会) に反対したためであった。この態度は、1971 年の MARTA をめぐる住民投票において明確になった。

2) ストーンマウンテン有料高速道路建設への反対は、有料道路建設を推進した開発業者 (工業団地、ストーンマウンテン・パーク関係者) 対住民という図式をつくりだした。住民は、自分たちの運動を、環境運動と位置づけ、とくに森林保護の観点から、開発業者のレトリックに対抗した。

3) 反開発や環境保護といういわゆる「リベラル」な立場の表明が、人種関係の改善をも意味したわけではなかった。MARTA 案へ賛成すると同時に、デキャーブ郡南部へのストーンマウンテン有料高速道路の移転を訴えていたが、その地域では 1960 年代の後半に黒人人口が急増しており、一世帯用住宅地から商業区域へとゾーニングの変更が行われていた。黒人住民はそれにつよく反対していた。

4) ジョージア州知事ジミー・カーター (民主党) に働きかけ、1972 年にストーンマウンテン有料高速道路建設の中止を勝ち取った。

この作業の結果は、近日中に論文として公表される予定である。なお、調査の一部は、日本アメリカ学会の *Journal of Japanese American Studies* vol. 19 (2008) 掲載の “Manufacturing Segregation: The Birth and Death of Underground Atlanta, 1969-1981” に用いられている。

B. 課題

以下の 3 点が課題として残っている。

- 1) 全米で進展する環境運動と Druid Hills のそれとの関係を調べる。とくに都市化・郊外化と環境運動の発生がどのように関係し、それといかにアトランタの事例がかかわるのか、あきらかにすること。
- 2) 資料の詳細にわたる分析が終了していない。とりわけ、家事労働者に関する文書に関しては、いきとどいた分析ができていない。
- 3) オリジナル・フィルムの破損などで、一部の時期の発行分が入手できなかった新聞がある。

これらの課題については、2009 年度に行う予定の予備調査、またさらなる史料分析によって対処したい。